

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2013～2015

課題番号：25704002

研究課題名(和文) テクストの中の建築：初期近代イタリアの芸術文化における文字、図像、空間の融合

研究課題名(英文) architecture in text: fusion of text, image and space in the artistic culture of the early modern Italy

研究代表者

桑木野 幸司 (Kuwakino, Koji)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：30609441

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、初期近代のイタリアにおける芸術文化を、領域横断的なアプローチによって、より深く理解することを目的とした。ルネサンス文化が発展し、芸術や文芸、科学、思想の面で人類史上稀に見る成果を生み出したこの時期、テキストとイメージと空間は密接な関連をもって、創造の場面において融合していたが、これまでそうした側面には光が当たってこなかった。本研究では記憶術を理論的中心に据えたうえで、百科全書主義やコモンプレイスの伝統、エンブレムやインプレーザといった文字と図像を融合させた領野を分析し、さらにそれらと建築・庭園・都市空間との関わりを考察することで、新たな知見を多数明らかにすることが出来た。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to understand from the interdisciplinary point of view the artistic culture of the early modern Italy, in which texts, images and spaces were inseparably intermingled to create works of art. However these aspects have not attracted the attention of scholars. This study, starting from the theories and precept of the traditional art of memory, tried to reveal them analyzing the discipline dedicated to fuse texts and images such as encyclopedism, commonplaces, emblem and impresa and their relations to architecture, garden and urban planning.

研究分野：西洋美術史・建築庭園史・思想史

キーワード：記憶術 初期近代 イタリア 植物園 庭園 百科全書主義 コモンプレイス

1. 研究開始当初の背景

初期近代の西欧社会は、新大陸の発見やアジア諸国との交易、地動説の提唱等の近代自然科学の発展、印刷術の発明、宗教改革などの諸要因により、中世以来の知的枠組みが崩壊し、それらに代わる様々な知的モデルが提出され、知識を表象する方法や視覚的媒体も一挙に多彩化した時期にあたる。こうした情報の氾濫のなかで、記憶術という知的方法論が近年とりわけ高い注目を集めている。

記憶術とは、古代修辞学において発達した一種の人為的記憶改善法であり、演説内容を暗記するために用いられた。その要諦は「場所」と「イメージ」に基づく立体的・視覚的な情報処理にあり、文字情報をイメージ化し、それを精神内の仮想空間に置くことで機能する。

文字とイメージと空間を巧みに融合するこの記憶術が、情報に溢れた初期近代の知的文脈において、とりわけ創造的な形で活用されていたのが、芸術ならびに文芸・思想の分野ではないか、という前提のもと、分野横断的なアプローチを採用することで、初期近代の知的創造の場面をより深く理解できる可能性に思い至った。

2. 研究の目的

初期近代におけるテキストと建築の創造的な関係を多角的に分析する本課題では、その準備作業として、まず西欧の文芸における建築のメタファーの歴史を、古代からルネサンスの直前に至るまで可能な限り網羅的に拾い上げて、その性質やテーマを分類・整理する作業を行う。プラトン以来、建築は様々なかたちで思考の枠組みを提供し、あるいは知識のメタファーとして機能してきた背景があり、その全貌を把握しておくことがまず重要となる。その伝統をおさえた上で、1. 文学の中の建築空間、2. 建築的記憶術、3. 建築の中の文学的空間、の3つのテーマに沿って、文字とイメージと空間の融合の場面を明らかにしてゆく。

3. 研究の方法

本研究では、以下の三つのテーマと九つのサブテーマを、それぞれの年度で重点を変えながら、平行して遂行する。

テーマ 1: 文学の中の建築空間 分析対象を文学作品に絞り、テキストの中に表象された建築や空間のイメージを、多角的に考察してゆく。

サブテーマ a: 文学テキストにおける建築のエクフラシスの描写の分析

視覚芸術を言語によって描写する伝統的な修辞技巧「エクフラシス」が、ルネサンス期の文学作品において本格的に適用されている事例を分析し、テキストと空間の通底が言語芸術においてどのような仕方で行なわれているのかを考察する。対象テキストは、アリオスト『狂乱のオルランド』、F.コロナ『ポリフィロの夢』を中心とした、騎士・幻想文学。

サブテーマ b: 文学における建築記述に対する、ルネサンス建築文化からの影響の分析

修辞上の描写技巧ではなく、テキストが表象する建築空間そのものに着目し、そこに、ルネサンスにおける建築文化の発展が具体的にどのような影響を与えているのかを分析する。ここでは、文学と建築史・美術史を統合する視点が模索される。対象テキストは上述サブテーマ a と同じ。

サブテーマ c: 文学における建築描写が、ナラティブ構造をも規定しているケースの分析

文学における建築描写が、単に場面の背景としてではなく、物語の叙述構造をも規定する、いわゆる思考の器として機能しているケースを取り上げ、その機構を明らかにする。分析対象は上記サブテーマ a・b のテキストに加え、『薔薇物語』やボッカッチョの作品、十六世紀仏語詩など。

テーマ 2: 建築的記憶術 イメージと場所に基づく記憶術を考察対象とする。同術において、情報整理のために想定される仮想の建築空間が持つ創造的可能性を多角的に分析する。

サブテーマ a: 記憶のロクス(背景)としての仮想建築の分析

記憶術に用いられる情報の器としての仮想建築に着目し、その特質・類型・機能をさぐるとともに、そうしたヴァーチャル空間の設計に同時代の建築文化が与えた影響を探る。主な分析資料はC. ロッセッリ『人工記憶の宝庫』、L. シェンケル『記憶術の宝庫』。

サブテーマ b: 初期近代における知の整序モデルとしての建築メタファーの事例分析

建築のメタファーが、百科全書的な知識を分類整理するための枠組みを提供している事例を分析し、知の表象と空間の創造的な関係を明らかにする。分析対象としては、仏十六世紀の詩、常套句 (loci communes) 集、A.F. ドーニ他の伊作家たち作品。

サブテーマ c: 記憶術を実際の空間設計に応用した事例の分析

応募者のこれまでの研究成果をフィードバックしつつ、十六世紀イタリアの植物園、

フィレンツェのパラッツォ・ヴェッキオおよびウッフィーツィ宮の装飾、プラトリノーやヴィッラ・デステ等のイタリアの装飾庭園、理想都市案・ユートピア都市計画論などを分析し、その空間構成にどのような仕方で記憶術教則が適用され、またどのような効果を生んでいるのかを探る。

テーマ3：建築の中の文学的空間 初期近代において、空間の設計と文章の構成とが同一の地平で理解されていた側面に光を当て、その建築側の理論と実践とを分析してゆく。

サブテーマ a: 建築設計理論・デザイン実践への文学・修辞理論の影響の分析

十五 - 十六世紀に実現ないしは提案された建築空間に、修辞学理論が応用されている事例を分析し、テキストと空間の通底をさぐる。具体的には、アルベルティが関与した作品、ピエンツァの都市計画、王侯の入市行進の形式、装飾庭園の構成など。

サブテーマ b: 文学的建築家(L.B. アルベルティとV. スカモツィ)のテキストと実作の分析

文章構成と建築設計の通底を重点的に探る対象として、文筆家としての活動も際立つ建築家を取り上げ、その文章と建築実作との対応関係を考察する。具体的には、文学者としても一級の才能を持つL.B. アルベルティ、さらには浩瀚な建築論『普遍的建築の理念』(1619)において建築と弁論術を対比して論じたV. スカモツィなどを考察対象とする。

サブテーマ c: 建築テキストに描写された「天空のイェルサレム」・「ソロモン神殿」の比較分析

建築学テキストの中の建築の代表例として、聖書で語られ、後世の様々な建築家たちによる復元が試みられた「天空のイェルサレム」ないしは「ソロモン神殿」について、各種の復元案を比較分析する。建築家アルベルティの著作『Momus』の他、仏詩人ミシェル・キリアン、独の百科全書主義者アルシュテットらの都市・神殿案を分析。

4. 研究成果

記憶術と建築空間の関係については、研究活動スタート支援(前課題)より継続して分析している Cosma Rosselli による記憶術著作、*Thesaurus artificiosae memoriae* (1571)の精読を行い、仮想空間の中でテキストとイメージが創造的な仕方で融合し、知的活動の促進に貢献している事例を分析した。その成果は、美術史学の権威ある学術誌『西洋美術研究』にて日本語の論文として発表したほか、東京文化財研究所主催の領域横断的な国際シンポジウムにおいても報告し、国際的な発信を行った。

一方で、同じく前課題から引き続いて分析を行っている Thomas Lambertus Schenkelius, *Gazophylacium artis memoriae* (1610)について、

さらに考察を進め、その成果を、イタリアおよび日本で行われた国際シンポジウムの場で、英語にて発表を行った。またその内容を英語論文として整えたものが、現在印刷途上にある国際論集にて出版予定である (Alberto Cevolini (ed.), *Forgetting Machines. Knowledge Management Evolution in Early Modern Europe*, Brill, 2016)。

一方で、物理的な建築空間における、百科全書主義や記憶術的な情報管理の方法論の影響というテーマについては、1545年設立のパドヴァ植物園に着目し、その設計者とされるダニエーレ・バルバロの美学思想を丹念に分析することで、テキストとイメージと空間が創造的に交わる事例を明らかにした。その成果は、大阪大学でのシンポジウムで報告したほか、イタリア語の論文として、ダニエーレ・バルバロに捧げられた国際シンポジウムの論文集にも寄稿し、現在印刷途上にある (Vaso Zara (ed.), Daniele Barbaro. *Vénitien, patricien, humaniste*, Brepols, 2016)。

その他、初期近代の豊穡な建築文化をより広い観点から考察し、とくに、16世紀初頭のローマにおいて、近代的なランドスケープのコンセプトが、建築家プラマンテによって先駆的な形で提示されていたことを、彼に捧げられた著作(NTT出版)に収録の論文の形で発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

Kuwakino, Koji, “From *domus sapientiae* to *artes excerptendi*: Lambert Schenkel’s *De memoria* (1593) and the Transformation of the Art of Memory”, in A. Cevolini (ed.), *Forgetting Machines. Knowledge Management Evolution in Early Modern Europe*, Leiden, Brill 2016, in print.

Kuwakino, Koji, “La *varietas* in una *sylva geometrica* che «ricrea la mente stanca dal pensiero delle cose difficili»: Daniele Barbaro e l’Orto Botanico di Padova”, in Vasco Zara (ed.), *Daniele Barbaro. Vénitien, patricien, humaniste*, Turnhout, Brepols 2016, in print.

桑木野幸司, 「記憶のアーティスト：心を造形する者たち」、大阪大学アートメディア論講座『Arts&Media』、vol. 5、2015年、6-29頁。

桑木野幸司, 「記憶のかたち - コスマ・ロッセリ『人工記憶の宝庫』(一五七九年)

における天国と地獄の表象』、東京文化財研究所編、『「かたち」再考 開かれた語りのために』、平凡社、2014年12月、301-315頁。

桑木野幸司、「記憶術の叡智の家：ルネサンスの黄昏における伝統の変容」、ヒロ・ヒライ、小澤実編集、『知のミクロコスモス：中世・ルネサンスのインテレクチュアル・ヒストリー』、中央公論新社、2014年、42-68頁。

桑木野幸司、「庭の掟 (Lex hortorum)：初期近代イタリアにおける庭園の公開について」、大阪大学アートメディア論講座『Arts and Media』、no.4、2014年3月、58-79頁。

Kuwakino, Koji, "The great theatre of creative thought", *Journal of the History of Collections*, Nov 2013, Vol. 25 Issue 3, pp. 303-324.

桑木野幸司、「天国と地獄の想起：C・ロッセッリ『人工記憶の宝庫』における視覚芸術からの影響について」、『西洋美術研究』、No. 17、三元社、2013年11月、91-110頁。

桑木野幸司、「思考の庭：知の編集空間としての初期近代イタリアの庭園」、大阪大学アートメディア論講座『Arts and Media』、no.3、2013年3月、26-46頁。

〔学会発表〕(計 9件)

Kuwakino, Koji, "Transforming the Art of Memory: Schenkel's *De memoria* (1593)", The 3rd International Conference: Renaissance Humanism and Japan's Christian Century (1549-1650), Gakushuin Women's College (Tokyo), Jul 18, 2015.

Kuwakino, Koji, "From *domus sapientiae* to *artes excerpenti*: Lambert Schenkel's *De memoria* (1593) and the Transformation of the Art of Memory", International Workshop "Forgetting Machines. Knowledge Management Evolution in Early Modern Europe", Palazzo Dossetti, Viale Allegrì 9, 42121 Reggio Emilia,

09 Luglio, 2015.

桑木野幸司、「記憶の中のイエルサレム：初期近代西欧の聖都表象と夢・幻視・想像力」、第47回国際日本文化研究センター 国際研究集会「夢と表象—その国際的・学際的展開の可能性」、招待講演、2015年3月1日、国際日本文化研究センター。

桑木野幸司、「ダニエーレ・バルバロとパドヴァ植物園：多様性 (varietas) の観点を中心に」、第25回待兼山芸術学会、招待講演、2015年3月29日、大阪大学工学部 ホール。

桑木野幸司、「モンテニューが見た庭：知の空間としての初期近代イタリアの庭園」、第50回ラブレ・モンテニュー研究フォーラム、招待講演、2014年5月24日、お茶の水女子大学。

桑木野幸司、「庭園と記憶術：初期近代西欧の芸術文化と創造的記憶の関係をめぐる一考察」、国際シンポジウム「かたち 再考」準備研究会、招待講演、2013年8月2日、東京文化財研究所。

桑木野幸司、「初期近代西欧の芸術文化における創造的記憶」、藝術学関連学会連合第8回公開シンポジウム「藝術と記憶」、招待講演、2013年6月8日、国立国際美術館講堂。

桑木野幸司、「ムネモシユネの宴：初期近代イタリアの文芸・視覚芸術におけるテキストとイメージの通底」、エクフラシス研究会：古典学と美(術史)学の間、招待講演、2013年3月23日、大阪大学会館。

桑木野幸司、「庭の掟 (Lex hortorum)：初期近代イタリア庭園の公開性について」、大阪大学文学部共同研究「ヨーロッパ文化としてのグランドツアー」研究発表会、招待講演、2013年3月5日、北海学園大学。

〔図書〕(計 件)

桑木野幸司、稲川直樹、岡北一孝『プラマ

ンテ：盛期ルネサンス建築の構築者』、NTT出版、2014年、558頁。

桑木野幸司、『叡智の建築家：記憶のロクスとしての16-17世紀の庭園、劇場、都市』、中央公論美術出版、2013年12月、542頁。

アンドルー・ペティグリー著、桑木野幸司訳、『印刷という革命：ルネサンス時代の本と日常生活』、白水社

〔産業財産権〕
出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桑木野 幸司 (KUWAKINO KOJI)
大阪大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：30609441

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：